

令和8年度

運営に関する計画



大阪市立豊崎中学校

令和8年度 大阪市立豊崎中学校 グランドデザイン

◇日本国憲法
◇教育基本法
◇学校教育法
◇学習指導要領 等

校訓
希望・努力・友情・自立

学校教育目標
人間尊重の精神を基盤とし、
多様な価値観を持つ人々と協働しながら
持続可能な未来を切り開く力を育てる

◇市教育振興基本計画
◇地域・保護者の願い
◇生徒の実態
◇社会情勢 等

急速なデジタル化や社会構造の変化が進む中、先行きの見通しが立ちにくい時代を生き抜くためには、知識だけでなく、自ら考え判断し、他者と協働しながら課題を解決する力が求められている

**PDCAサイクル
の確実な実施**

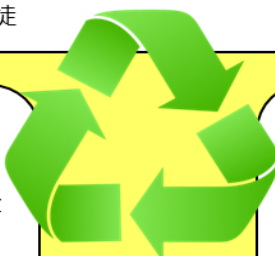
めざす生徒像

- 自ら課題を見つけ、考え、自分の意見を話し、主体的に行動する生徒
- 心身を鍛え、あきらめずにやり抜く生徒
- お互いの違いを理解し、尊重しあう生徒
- 自らを律し、自ら学び続け、自らを表現する生徒



めざす学校像

- 「主体的・協働的な深い学び」を通して、総合的な学力を育む学校
- 多様性を認め、一人ひとりの個性と人権を尊重する学校
- 地域・家庭・関係諸機関と密に連携し、「チーム学校」として生徒を育てる学校
- いじめの未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む、安全・安心な学校



めざす教職員像

- 常に学び続け、確かな授業力と専門性を備えた教職員
- 生徒一人一人に寄り添い、実態を的確に把握した指導ができる教職員
- 鋭い人権感覚と倫理観を持ち、保護者や地域から信頼される教職員
- 高い危機管理意識を持ち、生徒の命と安全・安心を確実に守る教職員

具体的方策

- 1 安全で安心な教育環境の整備と、人権尊重に基づく生徒支援の充実
(不登校・個別ニーズへの支援、防災・減災教育、健康・体力の増進)
- 2 「主体的・対話的で深い学び」を軸とした、学びの質の向上
(教科横断的な学習、自主学習習慣の確立)
- 3 ICTと学校図書館を活用した、学習環境と情報活用力の充実
(学習者用端末の活用、情報共有、探究的な学習)
- 4 キャリア教育と国際理解教育の充実による、社会で生きる力の育成
- 5 地域・家庭・関係諸機関と連携した、開かれた学校づくり
(大学や企業連携を含む)
- 6 教育活動を支える教育環境・校内体制の計画的整備



密な連携

学校元気アップ事業

- 学習サポート
- 図書室開放

P T A・地活協活動

- 行事サポート
- 防災学習

小中連携

- 授業体験
- 部活動体験
- 児童生徒連絡会

大阪市立豊崎中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

日常の学校生活において、生徒の多くが登校時間の定刻までに登校することができており、すすんで挨拶を行うことや、落ち着いた状態で学校生活を過ごすことができている。その成果もあってか、過去数年間において暴力行為による案件は発生していない。また、授業や諸行事はもちろんのこと、学校生活のあらゆる場面において、生徒が主体的・積極的に活動に参加し、なかまと協働して取り組むこともできている。そのため、年度目標アンケートにおける「学校の規則を守っている」に対する生徒の肯定的回答の割合は、95.0%と高い。不登校生徒の割合は令和7年度においては8.6%（232名中20名）と、前年度（11.8% 219名中26名）に比べて改善した。

その一方で、授業中は集中して積極的に取り組む姿が見られるものの、その学びが家庭学習へと十分に結び付き、充実しているとは言い難い状況である。年度目標アンケートにおいても、「家では自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒は肯定的回答が60.6%にとどまっており、生徒一人ひとりの学習習慣の確立に向けて、さらなる指導や支援の充実が課題である。また、年度当初に実施された全国学力・学習状況調査において、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に肯定的に回答した生徒の割合は76%であった。一方、年末に実施した年度目標アンケートにおける「自分には、良いところがあると思う」とに対する肯定的な回答の割合はほぼ横ばいの77.6%（学校全体では78%）であった。これらの結果から、日々の教育活動における取り組みの成果を、生徒自身の自己肯定感の向上へとより効果的に結び付けていくためには、なお改善の余地があると考えられる。

このような現状を踏まえ、本校では、生徒の優れている点をさらに育み伸ばすことと並行して、課題の改善に向け、生徒一人ひとりが達成感や成就感を味わうことのできる指導を重視していく。

学習面においては、英語科を校内研究授業の柱に位置付け、「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むとともに、さらなる学力の向上を図る。その過程において、「できた」と実感できる機会を意図的に創出することで、生徒の自己肯定感の育成につなげていく。

また、生活面においては、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、そして担任を中心とした学年団が連携を密にしながら取り組むことで、不登校生徒のみならず、配慮や支援を要する生徒へのきめ細かな支援へとつなげ、だれ一人取り残さない教育を実現させる。

これらの取組を通して、確かな学力の定着と自己肯定感の向上を基盤に、「知・徳・体」の調和のとれた育成を図り、全教職員が一体となって教育活動を推進する。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を95%以上にする。
- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。
- 年度末調査における不登校生徒の割合を、前年度より減少させる。
- 令和11年度末の年度目標アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答する生徒の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和11年度の中学生チャレンジテストにおいて、国語・数学ともに平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より上回る。
- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「授業では、話し合う活動によって、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を55%以上にする。
- 令和11年度の年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和11年度の年度目標アンケートにおいて「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教職員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を30時間以内とするとともに、時間外勤務時間が30時間以内となる教職員の割合を45%以上にする。
- 令和11年度の年度目標アンケート（保護者）における「学校は、地域・家庭に向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を93%以上にする。

2 中期目標に向けた年度目標

【安心・安全な教育の推進】

- 本年度の年度目標アンケートにおける「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度と同等程度にする。（令和7年度 93.8%）
- 本年度の年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。（令和7年度 77.8%）
- 本年度の不登校生徒の割合を、前年度より減少させる。（令和7年度 8.6%）
- 本年度の年度目標アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。（令和7年度 86.1%）

【未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 中学生チャレンジテストにおける、国語、数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

78期生（令和7年度	国語	1.07%	数学	1.11%
77期生（令和7年度	国語	1.17%	数学	1.16%
- 本年度の年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。（令和7年度 47.4%）
- 本年度の年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%にする。（令和7年度 57.2%）

【学びを支える教育環境の充実】

- 本年度の年度目標アンケートにおいて「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教職員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を30時間以内とするとともに、時間外勤務時間が30時間以内となる教職員の割合を40%以上にする。
- 本年度の年度目標アンケート（保護者）における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。（令和7年度 87.7%）

大阪市立豊崎中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 本年度の年度目標アンケートにおける「学校や学級が楽しい。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を昨年度と同等程度にする。(令和7年度 93.8%) ○ 本年度の年度目標アンケートにおける「自分には、よいところがある。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。(令和7年度 77.8%) ○ 本年度の不登校生徒の割合を、前年度より減少させる。(令和7年度 8.6%) ○ 本年度の年度目標アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけない。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。(令和7年度 86.1%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
① 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者・地域と連携を図り、いじめ・問題行動を生まない学校づくりを推進する。 指標 毎日の観察及び各学期に実施する調査や教育相談により早期に発見・対応することで、年度内において100%解消する。	
② 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者に対する家庭学習における学習支援や子育てについての情報提供を行う。 指標 年度目標アンケート(保護者)における「学校は、子どものことについて適切に相談に応じてくれる。」に対して、最も肯定的な回答をする保護者の割合を53%以上にする。(令和7年度 52%)	
③ 【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 保護者・地域・区役所・消防署と連携し、合同避難訓練及び災害時対策訓練を実施する。 指標 年度目標アンケートにおける「自然災害、事故が発生した時、どうしたらよいか日頃から考えている。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を65%以上にする。(令和7年度 63%)	
④ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 挨拶をはじめとする基本的生活習慣を意識させることで、道徳的規範意識の高い集団を育成する。 指標 年度目標アンケートにおける「学校は、礼儀や道徳、マナーの大切さを教えてくれている。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を77%以上にする。(令和7年度 75.0%)	
⑤ 【基本的な方向2 豊かな心の育成】 学級・学年活動及び学校行事を通じて集団の一員としての自覚を育成し、互いを認め、高め合う集団づくりを推進する。 指標 年度目標アンケートにおける「学級でみんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。(令和7年度 69%)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立豊崎中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓くための学力・体力の向上】 ○ 中学生チャレンジテストにおける、国語、数学の平均正答率の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 78期生（令和7年度 国語 1.07% 数学 1.11%） 77期生（令和7年度 国語 1.17% 数学 1.16%） ○ 本年度の年度目標アンケートにおける「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を50%以上にする。（令和7年度 47.4%） ○ 本年度の年度目標アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を60%にする。（令和7年度 57.2%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
① 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 指導形態や教材を工夫し、基礎学力の定着を図る。また低学力生徒や配慮の必要な生徒に対して、補充学習を実施する。 指標 年度目標アンケートにおける「先生は、授業やテストでの間違いや理解していない部分について、わかるまで教えてくれる。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を60%以上にする。（令和7年度 57.4%）	
② 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教科において「主体的・対話的で深い学び」を達成するための教材研究および授業展開を検討する。 指標 学力向上サポート事業を活用し、教員校内研修（公開授業参観）を全教員が実施する。 年度目標アンケートにおける「先生は、授業内容や教え方を工夫している。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を73%以上にする。（令和7年度 71.1%）	
③ 【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 インプットした知識を活用し、自らの意見や考えを構築し、アウトプットさせることにより、生きて働く知識・技能を育成する。 指標 年度目標アンケートにおける「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている。」に対して、最も肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上にする。（令和7年度 67.0%）	
④ 【基本的な方向5 健やかな体の育成】 保健体育科の授業や学校行事を通じて、心身の健康に対する意識を高めるとともに基礎的な体力を向上させる。 指標 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、総合評価A及びB判定の割合を男女とも前年度を上回る。 （令和7年度 男子12.1% 女子32.5%）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

大阪市立豊崎中学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A; 目標を上回って達成した	B; 目標どおりに達成した
C; 取り組んだが目標どおりに達成できなかった	D; ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 本年度の年度目標アンケートにおいて「授業で学習者用端末をどの程度使用しましたか。」に対して、週3回以上と回答する生徒の割合を80%以上にする。 ○ 「学校園における働き方改革アクションプラン【2026-2029】」に基づき、教職員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を30時間以内とするとともに、時間外勤務時間が30時間以内となる教職員の割合を40%以上にする。 ○ 本年度の年度目標アンケート（保護者）における「学校は、地域・家庭に出向くなど、日常的に地域連携に努めている。」に対して、肯定的な回答をする保護者の割合を90%以上にする。（令和7年度 87.7%）	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組内容の進捗状況を測る指標	進捗状況
① 【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】 授業や学級活動で効果的にICTを活用することで生徒の意欲を引き出し、何事にも積極的に取り組む姿勢を育成する。	
指標 年度目標アンケートにおける「授業には、興味・関心を持って意欲的に取り組んでいる。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を88%以上にする。（令和7年度 85.8%）	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点